

## ◆部会活動紹介

## 放射線防護部会紹介

放射線防護部会 部会長  
NTT 東日本関東病院  
塚本篤子

放射線防護部会は、医療における放射線利用の安全と管理を考える専門部会です。9名の部会委員(Table 1)と、放射線防護に関心をもつ日本放射線技術学会会員によって構成されています。年2回の放射線防護部会(総会・秋季大会時)開催と会誌(オンラインジャーナル)発行、今年度より放射線防護関連のイベントや情報を掲載したメールマガジン配信(随時)、学会時に行われる教育委員会主幹の入門・専門講座やセミナー、一般市民向けの市民公開講座を開催しています。また、叢書の作成、学会時のシンポジウムの企画や宿題報告演者の提案、表彰者の推薦などもほかの専門部会同様行っています。

2015年度より、日本放射線技術学会の代表理事直轄委員会として、放射線防護委員会が発足しました。種々の活動を協調して行っています。よく、放射線防護委員会と放射線防護部会の違いがわからないといわれますが、簡単には委員会が外向け(他学会関連・非学会員)、部会が内向け(学会員)対応となっています。一般市民からの医療被ばく相談への回答作成なども、広報渉外委員会より放射線防護委員会経由で部会へ協力依頼が来ます。そのほか、放射線防護委員会が作成した「診断参考レベル運用マニュアル([http://www.jsrt.or.jp/data/wp-content/uploads/2013/07/drl\\_manual\\_20161001\\_ver3.pdf](http://www.jsrt.or.jp/data/wp-content/uploads/2013/07/drl_manual_20161001_ver3.pdf))」なども、計測部会・核医学部会と共同で作業させていただいています。

### 学会時開催事業

放射線防護部会は、そのときどきで必要とされる情報のシンポジウムや教育講演を3時間枠で開催しています。

第45回秋季学術大会では、教育講演、シンポジウムとも、「放射線災害への対応—その取り組むポイントとは—」というテーマで開催いたします。多くの方のご参加をお待ちしています。入門講座は「個人線量管

Table 1 平成29年, 30年 放射線防護部会委員

氏名	勤務先
塚本 篤子	NTT 東日本関東病院
五十嵐隆元	総合病院国保旭中央病院
磯辺 智範	筑波大学
竹井 泰孝	川崎医療福祉大学
大葉 隆	福島県立医科大学
西丸 英治	広島大学病院
広藤 喜章	セントメディカル・アソシエイツ
藤淵 俊王	九州大学大学院
松原 孝祐	金沢大学

理(職業被ばく)」、専門講座は「世界の放射線災害から学ぶ—放射線事故対策の重要性」を行います。ほかにも、放射線防護委員会企画の放射線防護フォーラム「今から考えておこう 従事者の水晶体被ばくについて」や、教育委員会・実行委員会合同企画の「DRLs 2015 発表後の動き」など、放射線防護関連の企画もたくさん開催されます。放射線防護部会誌は、学術大会に合わせて年2回の発行ですが、放射線防護部会教育講演やシンポジウムの抄録が掲載されますので、どのような内容か開催前に知ることができます。また、放射線防護関連の論文紹介なども行っています。

### セミナー

教育委員会と各支部が共催するセミナーで、当部会が担当するのは「放射線防護セミナー」と「診断参考レベル活用セミナー」(計測部会と共催)の二つです。

「放射線防護セミナー(グループワーク風景: Photo 1)」は2010年から始まり、全支部で開催しました。放射線診療に不安を抱く方にも安心して受けていただくために、放射線防護関連の基礎的・恒常的な知識を持っていただき、放射線を専門に扱う診療放射線技師の一助となるよう考えられたセミナーです。2011年に起きた福島原子力発電所事故後、放射線防護部会として対応していく中でリスクコミュニケーションの重



座学

グループワーク発表風景

Photo 1 放射線防護セミナー風景



Photo 2 診断参考レベル活用セミナー実習風景

要性を実感し、基礎的なリスクコミュニケーションに関する内容も加えました。また、座学だけではなく、患者からの相談を想定したグループワークも行いました。前述したように全支部で共催いただきましたので、このセミナーは今年度で終了になります。協力いただいた支部の皆様、参加いただいた会員の皆様、ありがとうございました。教育委員会の提案で、このセミナーの恒常的な知識を多くの会員がいつでも参照できるように、今年度 e-learning 化(動画セミナー)されます。他の e-learning 同様、有益なものにする意気込みですので、日本放射線技術学会の会員専用ページ (<http://www.jsrt.or.jp/data/activity/e-learning/>) にアクセスして完成版をぜひ閲覧ください(放射線防護の動画セミナーの公開は 2018 年予定)。

「診断参考レベル活用セミナー(実習風景: Photo 2)」は、2015 年 6 月に日本放射線技術学会も団体会員として活動に参加している「医療被ばく研究情報ネットワーク(J-RIME)」のワーキンググループが作成し公表した本邦初の「診断参考レベル(DRLs 2015)」の普及を目指しています。DRL は、放射線防護 3 原則に基づく医療被ばくの最適化のツールとして世界的に有用だと認められ、各国で設定が推奨されているものです。DRL を正しく理解し、自施設で有効活用していただくためのセミナープログラムを考えました。座学と実習で構成され、座学では、「DRL とは」、「DRL の意義」、「利用方法」、「DRLs 2015 の解説・利用方法」などを学びます。実習では、自施設での利用時に難しいとの意見が多い計測が必要な一般撮影・乳房撮影

と、会員からの要望の強い(DRLs 2015 では装置表示値を使用)CT 撮影の計測実習を行います。計測実習に関しては、計測部会委員の方が対応します。DRLs 2015 の広報が目的ですので、2016 年度、2017 年度の 2 年間で全支部開催になります。2017 年 7 月現在、5 支部(北海道・関東・近畿・中国四国・九州)で終了、残り 3 回は、9 月 3 日(日)東北支部(新潟大学医歯学総合病院)、11 月 19 日(日)中部支部(名古屋市立大学病院)、2018 年 1 月 21 日(日)東京支部(NTT 東日本関東病院)で開催します。ぜひ、ご参加ください。DRL は、最適化のツールとして有用なものですが、使用されないことには有用なツールになり得ません。ぜひ、自施設のデータと DRLs 2015 を比較し、有効活用いただけるように今後も広報を続けていきたいと思っております。

今年度で既存セミナーは終了しますが、新たな放射線防護に関する企画を提案開催予定です。

また、学術委員会では【専門部会に入ろう!!キャンペーン】を実施しています。その一環として、専門部会が開催するセミナーの専門部会会員の参加費 2,000 円割引をしています。ぜひ、ご活用いただきセミナーにご参加ください。

### 市民公開講座

放射線防護部会では、前身の放射線防護分科会時(1997 年～)より広報渉外委員会主幹の市民公開講座を、日本放射線技術学会も正会員として参画している医療放射線防護連絡協議会をはじめとした他団体や支部共催で毎年開催しています。福島原子力発電所事故

Table 2 放射線防護部会(放射線防護分科会)関連 市民公開講座

開催年	開催場所	内容
1997年	国際会議場(広島)	わが国の医療放射線被曝と在宅での放射線診療
1998年	東京医科歯科大学(東京) 愛知県がんセンター(名古屋)	医療における放射線被ばく対策 医療における放射線被ばく対策(科研費)
1999年	斉藤報恩会館(仙台)	医療における放射線被ばく対策(科研費)
2000年	大阪市立総合医療センター(大阪) 幕張メッセ(千葉)	放射線診療における被ばく対策(科研費) 放射線診療における被ばく対策(科研費)
2001年	北九州市立女性センター(北九州) 新潟ユニゾンプラザ(新潟)	放射線診療における被ばく対策(科研費) 放射線診療における被ばく対策
2002年	松山総合コミュニティーセンター(松山) 池坊学園こころホール(京都)	放射線診療における被ばく対策(科研費) 放射線診療における被ばく対策
2003年	高志会館(富山)	病院における放射線の被ばくを考える
2004年	松本市総合体育館(松本) 札幌医科大学(札幌)	病院における放射線の被ばくを考える 病院における放射線の被ばくを考える
2005年	福井市保健センター(福井)	病院における放射線の被ばくを考える
2006年	山梨県立文学館(甲府)	病院における放射線の被ばくを考える
2007年	千葉大学 けやき会館(千葉)	病院における放射線の被ばくを考える
2008年	秋葉原ダイビルコンベンションホール(東京)	暮らしの中での放射線, 医療放射線を考える(科研費)
2009年	千葉大学 けやき会館(千葉)	暮らしの中での放射線, 医療放射線ってなんだろう(科研費)
2011年	一橋記念講堂(東京)	放射線・放射能による影響と対策—福島原子力発電所事故による影響の理解のために
	コラッセふくしま(福島)	放射線・放射能を正しく理解するための市民公開講座
2012年	つくば国際会議場(つくば)	放射線に関する正しい教育を実施するための基礎講座(科研費)
2013年	コラッセふくしま(福島) アクロス福岡(福岡)	放射線・放射能を正しく理解するための市民公開講座 今を問う—私たちの暮らしと医療被ばく—(科研費)
2015年	大宮ソニックシティ(大宮)	放射線に対するリスクの正しい考え方—放射線と上手につき合うために—(科研費)
	金沢市文化ホール(金沢)	放射線と食の安全—日本の食文化を守るために—
2016年	広島グランドインテリジェントホテル(広島)	X線CT検査とマンモグラフィ—安心して検査を受けるために—(科研費)

後数回は、福島的一般市民の方々のために、事故後の対応をテーマとして行いましたが、そのほかは一貫して、一般市民の方に病院での放射線診療(医療被ばく)を正しく理解していただくことを目的として開催しています。今年度は科研費がとれ、「身近な放射線!検査と治療の最前線からリスク評価まで」というタイトルで、11月11日(土)長崎市(長崎ブリックホール)で開催します(九州支部共催)。ぜひ、お近くの会員の方のご参加、一般市民の方への広報をお願いいたします。放射線防護分科会・放射線防護部会が関係した市民公開講座をTable 2にしました。日本放射線技術学会ホームページ上(<http://www.jsrt.or.jp/data/activity/shimin-seminar/>)でプログラムや資料のPDFをダウンロードできるようになっています。

### その他の活動

放射線医療技術学叢書(31)「図解放射線防護ミニマム基礎知識」を2012年に発刊いたしました。放射線防護に関して最低限知っておいてもらいたい知識をわかりやすく、また親しみやすく記載しました。現在

は、叢書掲載のweb確認などを行った修正版で増刷いたしましたので、ご一読いただければと思います。セミナー開催時には割引販売をして、お求めやすくしています。

放射線防護部会ホームページ(<http://www.jsrtrps.umin.jp/>)には、部会セミナーなどのイベントや放射線防護関連の情報などを案内しています。

平成29年度より、放射線防護部会のメールマガジンを開始しました。部会員への情報や案内を7月1日現在までに2回配信しています。今後も新しい情報などを配信していきたいと思っています。

### 最後に

放射線防護は、各モダリティに関連したものです。診療放射線技師として、最低限知っておくべき、理解しておくべき内容があります。放射線防護部会では、DRLや水晶体被ばくのようなトピック的な情報ももちろんですが、基礎的な内容に関しても、継続して提供していきたいと考えています。放射線防護部会へのご意見、ご質問などありましたら、ご連絡ください。